

SHIN CLUB 287

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「Arrows aoyama II」 撮影：アック東京

境界線を活かす ― 縫合と分節 ―

写真は、昨年12月に竣工いたしました「Arrows aoyama II」です。一見1つの建物に見えますが、実は中央にある階段を境に右側は5年前に竣工した「Arrows aoyama」(SC245号)、左側が「Arrows aoyama II」と、別々に建築した建物となっています。

設計を手掛けた建築家 團紀彦氏は、「東京の街並みはひっくり返したおもちゃ箱のようだ」と語り、その思想には「境界線に対する共生」が必要であるとして、海外の街並みと比較しながらその重要性を語ってくれました。

「海外の街並みと比較するとその違いは一目瞭然で、建物やその境界線に対する考え方と、街並みに対する意識の違いを感じます。建物の起源が互いに違うので、今更同じにすることは難しいですが、建築家として街づくりを考えたとき、特にヨーロッパなどは既に完成形であるのに対し、東京は未だ経過途中だと感じます。その根底は『境界線における共生』の考え方の違いだと考えます」と團氏。

「Arrows aoyama II」の建つエリアの建ぺい率は60%。それ以外の40%部分を「Arrows aoyama」の境界線と重ねることで、建築面積を最大限確保しつつ、まるで1つの計画だったかのように思わせる建物計画とするため、境界線を強く意識されたそうです。「街の可能性とは、境界線をどう活かしていくかだと思います。以前辰さんで施工いただいた『BOSSビル(けやきビル: SC166号)』も同様で、計画地を囲うように伊東豊雄氏設計の『ケリングビル(旧

TOD'S表参道ビル)』が建っていましたが、境界面のファサードも丁寧にデザインされているにも関わらず、それを隠して新たな建物を建てることは街の財産として非常にもったいないです。なので中央部分を絞り、隠れてしまう面を見えるように設計したことで『BOSSビル』が建つ意味が生まれ、街並み的に1+1=3という価値になります。『Arrows aoyama』も計画当時は隣地にもう1棟建てるなんて想定していませんでしたが、今回『増築』という形で最終的に1つの建物のように見えるよう設計しました。1つ1つの境界線を丁寧に設計し活かしていくことで、隣地や隣エリアと分断されず、東京ならではの良い街が創れるのではないかと思います。それが建築家として、今の私の希望です」

青山三角地帯から境界線を活かした街並みづくりが始まっています。東京の街並みが世界遺産になる未来も遠くないかもしれません。



パリの街並み。高さや境界に統一性がある



東京の街並み。高さや境界に統一性がない
【團紀彦著「共生の都市学」より】



中央を絞った「BOSSビル」

Arrows aoyama II



5年前に建築した「Arrows aoyama」



「Arrows aoyama II」全景。まるで1つの建物だったかのような統一感がある



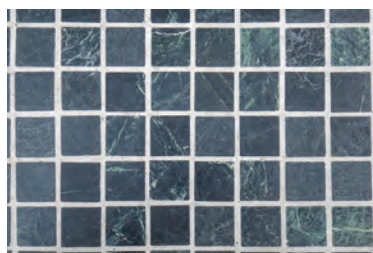
1階共用階段。階段を境に左がII



階段踊り場より。2階階段はIIの計画



屋上テラス



床には大理石「ベルデアルピ」を使用



空間を広く取った1階テナントスペース



2階へは共用階段からアクセス



2階テナントスペース

都市の増殖「時間との共生」

青山通りから小道を入った場所に位置する「Arrows aoyama II」は、青山通り、表参道、明治通りに囲まれた約50ヘクタールのエリア「青山三角地帯」にあり、私はよくこのエリアをお饅頭のカワとアンで例えるのだが、各通りから三角地帯内部（アン）に入るとき、接道沿いの建物の奥行（カワ）が大きければ大きいほど、誘導的な「何か」がない限り、小道へ入る人の流れが生まれづらい。そのため、「この小道の先には何かあるな」という気配を感じ取れるような建物計画をおこなう必要があると考えた。

物語の第1章である「Arrows aoyama」では、小道を覗いたときにテナントの雰囲気や伝わるよう、青山通り側面に大きな窓を設けたため、第2章である「Arrows aoyama II」もその誘導を活かし、前面に大きなガラス開口を設置し、テナント内部が望めるよう意図した。また、2棟の建物がかつて1つの建物として計画されたかと思えるよう、前面をヤードスペースにし、第1章から第2章へ続く統一空間とした。それはまるで「時間との共生」を具現化し、5年の時を経て今なお新しい物語をスタートさせる建物となった瞬間であった。

計画当初はそれぞれ別の建物とすることもできたが、2階へのアクセスに既存の階段を使用し、1階部分の階段計画を省くことで最大面積を確保できることが判明したため、増築という計画とした。

地震力に対し、建物の構造計算上それぞれ分断させる必要があるため、2階の接続部分にエキスパンションジョイントを用い、地震力に対する抵抗を分断させている。

今回のようなケースは非常に稀で、1度完結した建物に対し、新たに物語を接合する様は、まるで「連歌」のようで、姿かたちを変え新しい物に生まれ変わっていった「Arrows aoyama」は非常にワクワクした計画であり、私の思い描いていた「境界線の縫合」を試みた1つの実例となった。

1つ1つはバラバラだが、境界線の重要性を再認識し設計計画に取り入れることで「都市の増殖」が生まれ、先進国である日本の建築レベルの高さを象徴する「新しい界限性のある街・東京」として、良い形の街並みへと変化してくれることを、切に願っている。

（團紀彦建築設計事務所／團紀彦氏 談）

所在地：東京都港区北青山 3-10-19
構造：RC造
規模：地上3階（増築部分：地上2階）
用途：店舗
設計監理：團紀彦建築設計事務所
竣工：2023年12月
施工担当：上田（尾内チーム）
撮影：アック東京

上北沢S-Atelier



建物全景。厳しい斜線規制のなか設計された

photo by 高山まさき

木材の可能性

建て主様との出会いは、お互い材木に対してのこだわりが通じてのことだった。木材アートを通じ材木と深く関わりを持つなかで、営業の窪田さん（株式会社）から、「材木についてお話を聞きたい」として建て主様を紹介していただいたことをきっかけに、上北沢駅前の区画整理のお話を伺ったことで、今回の計画がスタートした。

住宅と違いプログラムが少ない分、共用部や多目的なところで面白さや豊かさを持たせたいと考えるが、計画地は西側と北側からの斜線規制が厳しい。上北沢駅のホームからも良く見え、人の目に留まるため1つの「ランドマーク」として見たとき、こういったものが良いか思考を凝らした。

その1つが「手摺」。テラスを計画するとモダンになりづらいのはなぜかと考えていたが、通常の納まりで計画すると「柵」となるため、外観から見たときのスマートさをつくりたいと考えた。「上北沢

S-Atelier」では、外壁面と手摺の仕上げ面を揃えて設置。天端の芯寄りに固定した角パイプから手摺を持ち出し、フラットバーで固定することで外壁面と揃うよう計画した。また線材を増やすことで、まるで外壁から伸びているように見える工夫を施した。シンプルで単純に見えるが、施工上はとても難易度が高く、幾度の検討と検証を経て出来上がったその姿は実にスマートで、ランドマークとして駅から望む凛とした佇まいに幸甚の想いであった。

建て主様から「自然木をどのように使おうか」という想いに対し、建て主様が所有する、およそ200年程前の大きな蔵へ共に赴き、貯蔵された数多の貴重な古材から選別し家具を制作。経年などで割れた部分には補修技法の「ちぎり」を用い、その様もデザインとして用いることで、唯一無二の趣のある家具が出来上がった。

今回の計画を経て、これからの建築業界はRC造と木造の混合建築が多く普及する世に変化するだろうと感じた。その背景には資材や人件費の高騰が密接に関係しており、計画によってはRC造部分のコンクリが固まった後に木造の構造部が建てられ、脱型時には全フロアの内装工事に取り掛かることが可能なた

め、工期短縮、予算や材料費も押えることができる。それには設計者の提案力と仮設計画や工程表への理解が必要となり、知識向上と現場経験を積む必要があるが、「地球」という大地を掘り上げ、そこに「建築物」という構造物を創ることができると考えると、とても心踊り、建築家という職業がいかに面白い仕事かと思わせてくれる。そしてそれは更なる向上心へと繋がる原動力となり、日本の新しい建築の変化へも対応することができだろう。

(エトルデザイン／高山まさき氏 談)



無垢の古材板を使用し制作したキッチン



3階フロア。シンプル空間に家具が映える

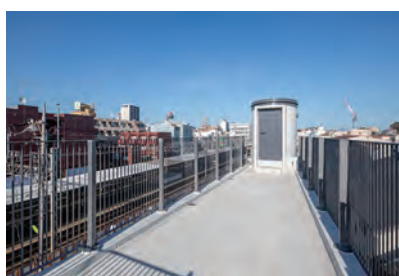


駅のホームより

photo by 高山まさき



建物西面。外壁面と手摺仕上げ面が綺麗に揃う



屋上テラス



館銘板

photo by 高山まさき

所在地：東京都世田谷区上北沢3丁目
構造：RC造
規模：地上3階
用途：事務所
設計監理：エトルデザイン
竣工：2023年7月
施工担当：中村
撮影：アック東京

TOPICS/INFORMATION

「2024 年度 株式会社辰 安全衛生協力会 安全大会開催」 2024 年 1 月 24 日（水）－ TKP ガーデンシティ渋谷 －

1 月 24 日（水）、TKP ガーデンシティ渋谷において 2024 年度 辰 安全衛生協力会の安全大会が開催されました。安全衛生協力会とは、辰と協力会社の皆さまが無事故無災害を目指す活動をおこなうものです。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが 5 類感染症となったことで、マスクを外しての登壇を可能としての開催とし、昨年同様通常 3 部構成での内容だったところを 2 部構成に縮小しての開催となりました。



開会の挨拶に、小関邦昭安全衛生協 来賓挨拶：麦島悦司様
会会長、夏井安全衛生委員長に続き、来賓の麦島悦司(株)麦島建設代表取締役、古賀智道池田建設(株)代表取締役にご登壇いただきました。



来賓挨拶：古賀智道様

第 1 部は、安全パトロールなどの活動報告、決算報告、現場事故報告、次年度活動計画・予算案承認、新年度役員改定（今年は役員重任）に続き、優良協力会社、匠の発表ののち、安全作業所の表彰、安全標語入賞作品紹介がおこなわれました。安全作業所を受賞した（仮称）パイロン神宮前一丁目計画新築工事の現場所長 山川に至っては、昨年に続き 2 年連続の受賞となります。その後、（仮称）Arrows aoyama II 計画新築工事の現場所長 上田による安全宣言と最優秀賞を受賞した年間スローガンを唱和し、第 1 部が終了。



上田所長による安全宣言

続く第 2 部では今期の業績、中期 5 年計画に基づく今後のビジョンについて、代表の岩本より数字を挙げての報



■安全作業所表彰

左から・（仮称）Arrows aoyama II 計画
新築工事 現場所長 上田 智也
・（仮称）パイロン神宮前一丁目計画
新築工事 現場所長 山川 保晴
・MRP 新築工事
現場所長 早川 博



■安全スローガン入賞表彰

・最優秀賞((有)マルチ技研 坂野幸広氏 作)
「辰の年 安全の手本だ 辰メンバー」

告がおこなわれ、目標達成への改善に向けて、協力業者様に更なる連携をお願いしました。その後、各部署の現況報告と、本年度入社した新入社員及びキャリア採用社員の紹介がおこなわれました。



最後は渋谷労働基準監督署 協力会社様も参加しての安全大会
副署長 梶山英之様をお招きし、「建設の事業における時間外労働の上限規制等」について講演いただきました。

日本の建設業に従事する就業者及び建設業者数は、ピーク時よりおよそ 20 ～ 30% 減少しています。また、高齢化が進み、55 歳以上が約 36%、29 歳以下が約 12% となり、実数ベースでは建設業就業者数のうち令和元年と比較して、55 歳以上が約 1 万人増加しているのに対し、29 歳以下は増減なしとのデータが出ているそうです。その根底には建設業における業務環境「きつい」「汚い」「危険」のいわゆる「3K」のイメージが強く影響しているとも言えます。

この状況を打破し、建設業に従事する人を増やすため、政府は「新 3K」（給与・休暇・希望）とし、様々な取り組みをおこなっています。その 1 つとして、今年 4 月 1 日より、建設事業における時間外労働の上限規制に関する労働基準法を執行。建設業における業務環境を改善し、働き方改革をおこなうことで建設業界の活性化へ繋げていきます。



梶山英之様による講演

今年度新たに多くの社員が入社しました。より多くの方々に、「建物を創る楽しさ」を実感してもらいたいです。



■優良協力会社表彰

左から・二ノ宮板金工業所
・株式会社 岡正塗装
・株式会社 浜田製作所
・有限会社 室井外構工事 ※当日欠席



■「匠」表彰

左から・井村義徳氏/株式会社 高水鐵工（鉄骨）
・齋藤輝氏/株式会社 久保協工業（左官）
・合田卓朗氏/有限会社 共立設備（設備）

2023 年度 採用人事



【前列】 2023 年度新入社員

左から■小林 弘幸（こばやし ひろゆき）
■福島 隆之介（ふくしま りゅうのすけ）
■齋藤 藍子（さいとう あいこ）
■川上 智哉（かわかみ ともや）

【後列】 2023 年度キャリア採用

左から■川和 征夫（かわわ いくお）
■大塚 史拓（おおつか ふみひろ）
■石川 敦隆（いしかわ あつたか）
■山崎 大誉（やまざき ともたか）

エトルデザインが設計、デザインプロデュースするホテル&ラウンジギャラリー「MUKUten. 舎・富士宮」が 2024 年 2 月中旬に開業

静岡県富士宮に、エトルデザインが設計・プロデュースを手掛ける宿泊施設がオープンします。

「MUKUten. 舎・富士宮」は、すべてのインテリアに日本の木、和木を使用し「木のしつらゑ」の中でゆったりと心身ともに癒される宿泊を提供する 1 日 1 組限定（1 名～5 名）の宿泊施設です。



<https://mukuten-sha.com/>

編集後記

・昨年弊社の建築現場では 7 件（うち物損事故 3 件）の事故が発生してしまいました。非常に高い数字です。今一度気を引き締めて現場管理をおこなってまいります。

（株）辰 通信 Vol.287 発行日 2024 年 2 月 10 日
編集人：本間夏来/村上由衣/土屋祐一郎 発行人：岩本健寿
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル 5F TEL:03-3486-1570
FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL: <http://www.esna.co.jp>



「SHIN CLUB」は WEB 上でご覧いただけます。

バックナンバーも PDF で掲載しています。
スマホはこちらから →

